

IV 調査結果の詳細

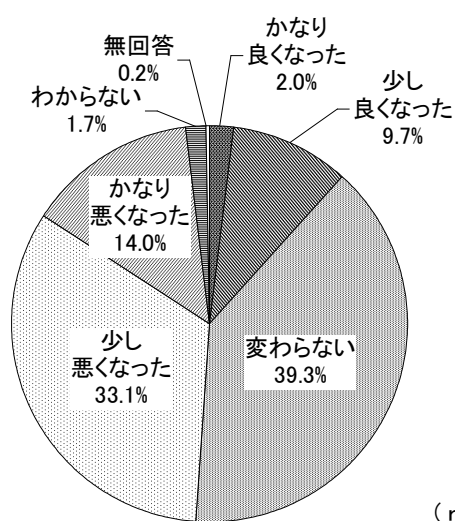
1 暮らしの変化について

(1) 暮らしの変化

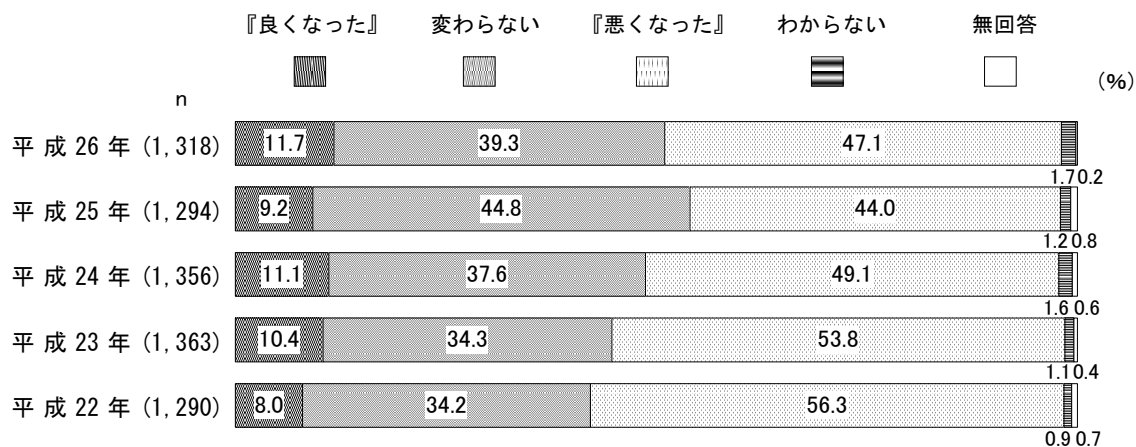
問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,318]

1	かなり良くなった	2.0%	4	少し悪くなった	33.1%
2	少し良くなった	9.7%	5	かなり悪くなった	14.0%
3	変わらない	39.3%	6	わからない	1.7%
				(無回答)	0.2%

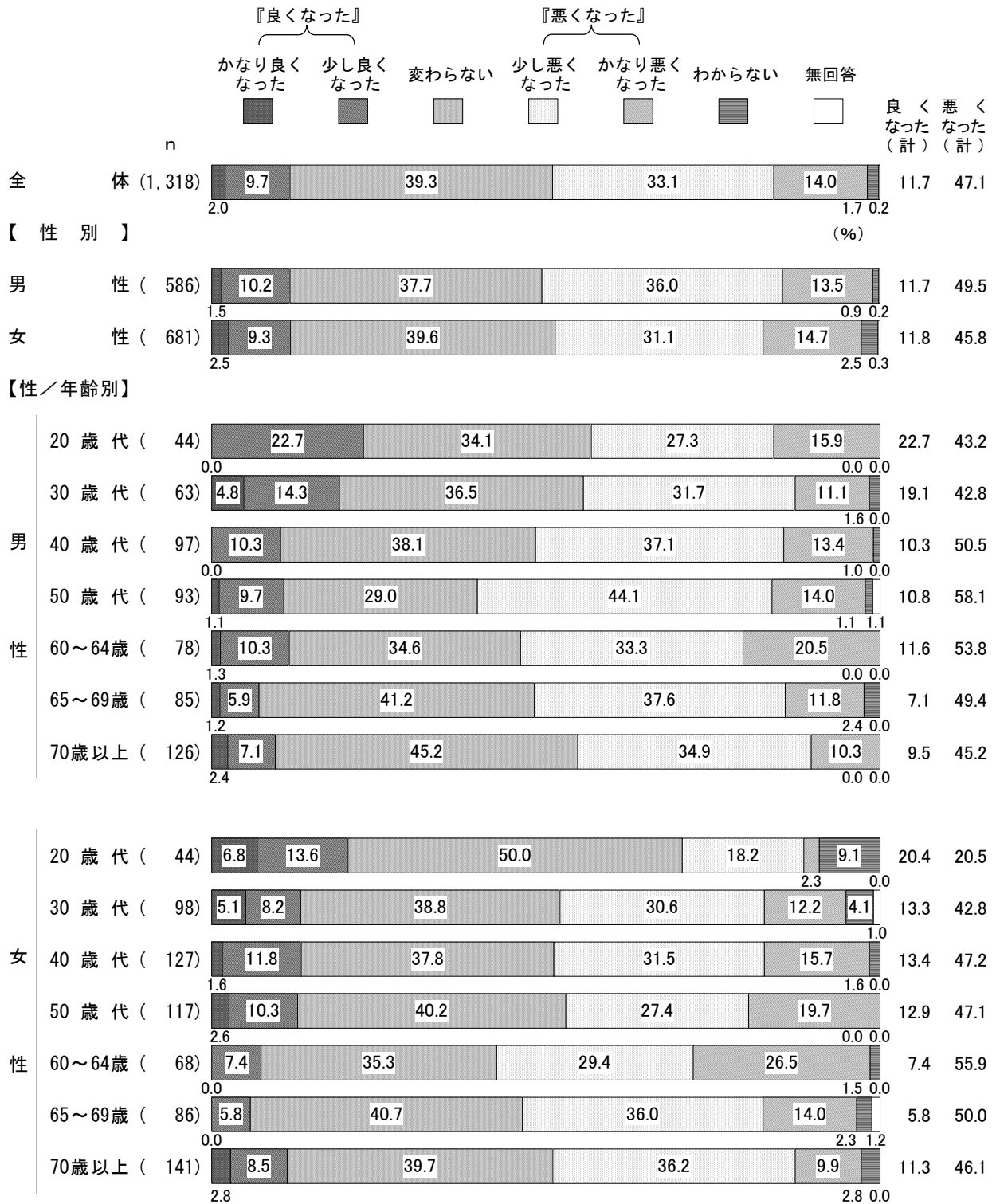


全体で見ると、「かなり良くなった」(2.0%)と「少し良くなった」(9.7%)の2つを合わせた『良くなった』(11.7%)は1割を超えている。一方、「少し悪くなった」(33.1%)と「かなり悪くなった」(14.0%)の2つを合わせた『悪くなった』(47.1%)は5割近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』が前回(平成25年)より3.1ポイント増加している。一方、『良くなった』は1割前後で推移している。

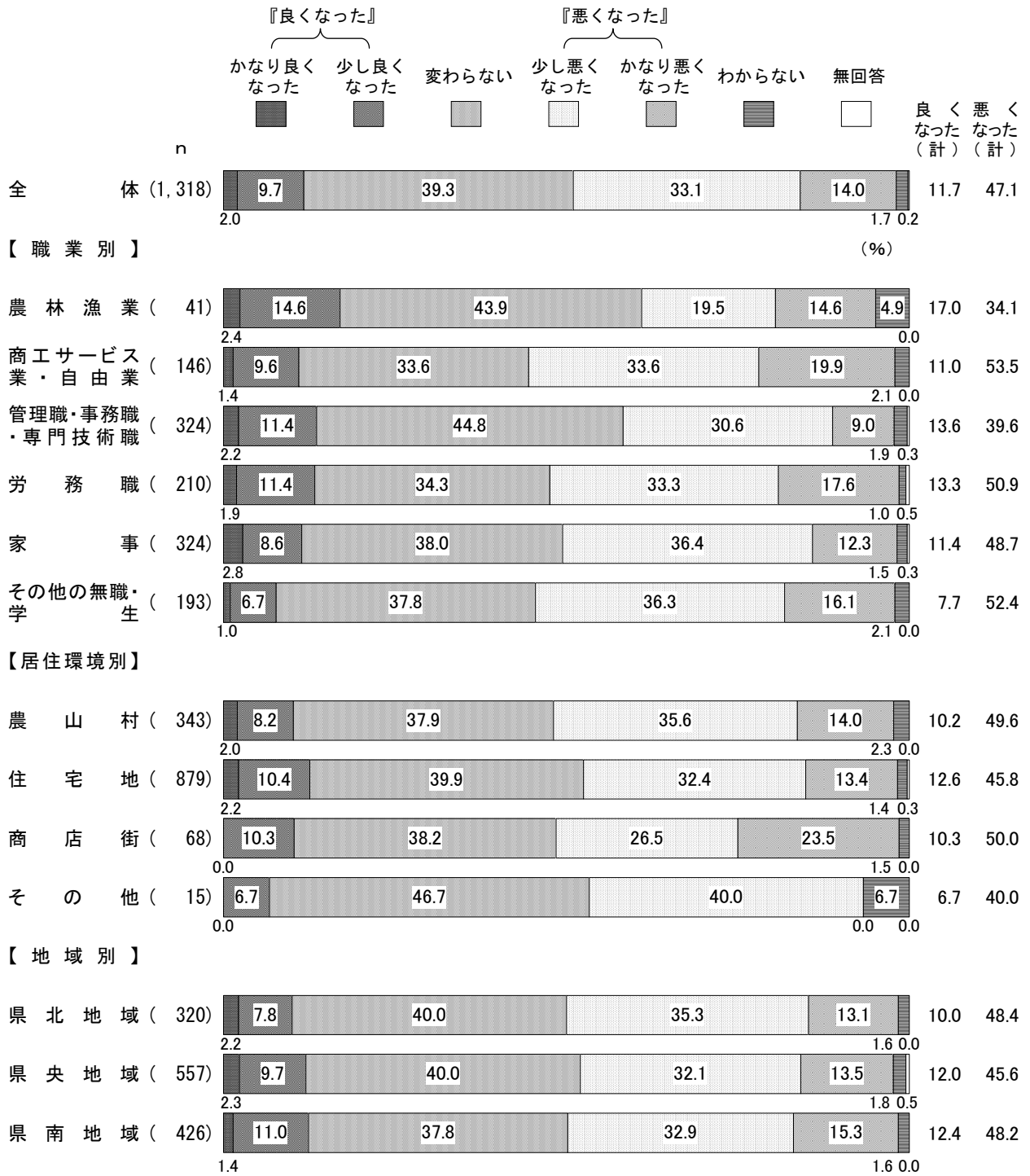
【性別・性／年齢別】



性別で見ると、『悪くなった』では〈男性〉(49.5%)が〈女性〉(45.8%)より3.7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『良くなった』では〈男性20歳代〉が22.7%、〈女性20歳代〉が20.4%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈男性50歳代〉が58.1%、〈女性60~64歳〉が55.9%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、『良くなった』では〈農林漁業〉が17.0%と高くなっている。『悪くなった』では〈商工サービス業・自由業〉が53.5%、〈労務職〉が50.9%と高くなっている。

居住環境別で見ると、『悪くなった』では〈商店街〉が50.0%、〈農山村〉が49.6%となっており、〈住宅地〉(45.8%)に比べて高くなっている。

地域別で見ると、『悪くなった』では〈県北地域〉が48.4%、〈県南地域〉が48.2%となっており、〈県央地域〉(45.6%)に比べて高くなっている。

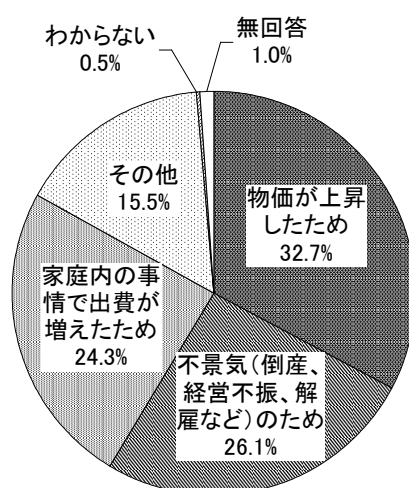
(1-1) 暮らしが悪くなった理由

(問1で「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。

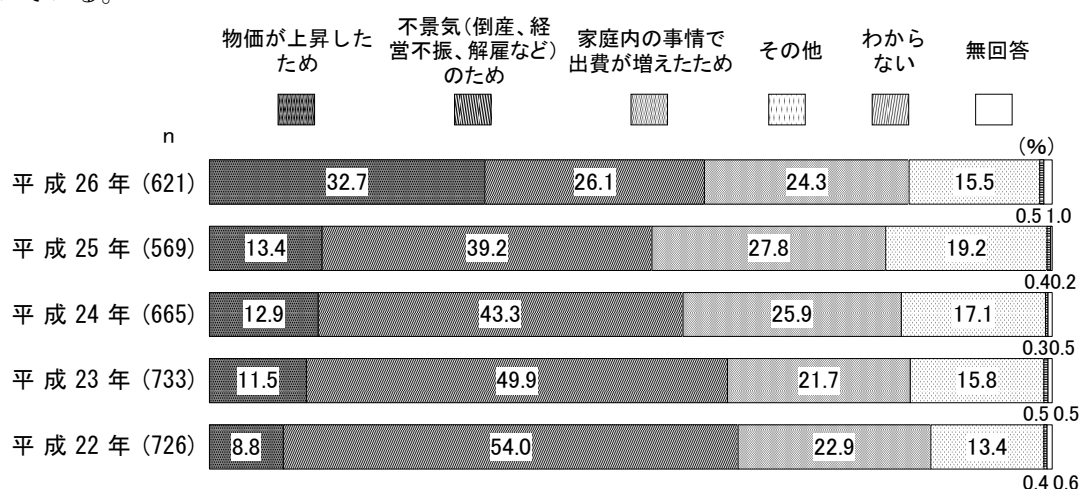
[n=621]

1 物価が上昇したため	32.7%
2 不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため	26.1
3 家庭内の事情で出費が増えたため	24.3
4 その他	15.5
5 わからない	0.5
(無回答)	1.0



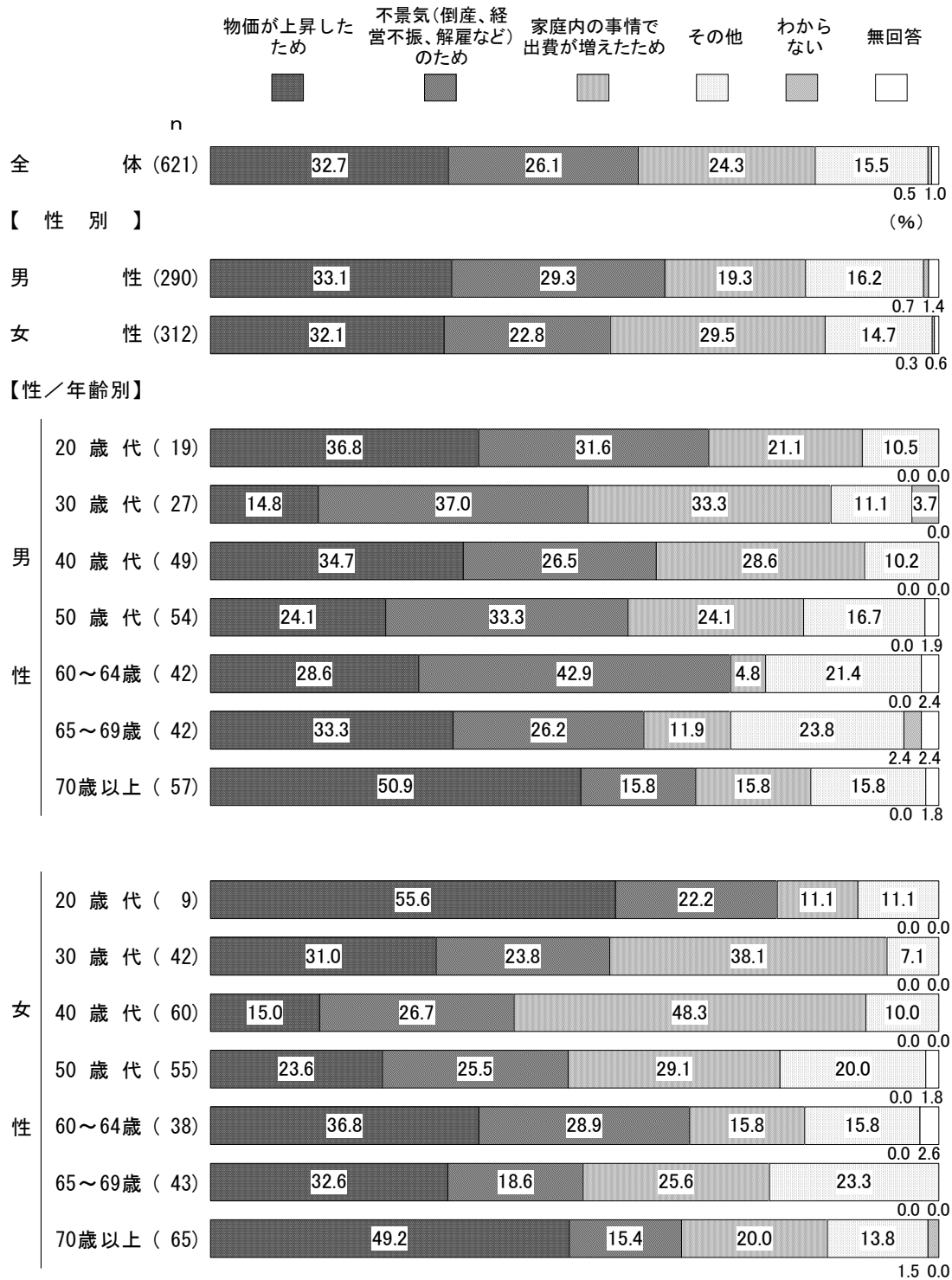
(n=621)

全体で見ると、「物価が上昇したため」(32.7%)が3割を超えて最も高く、次いで「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」(26.1%)、「家庭内の事情で出費が増えたため」(24.3%)の順となっている。



過去の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が前回(平成25年)より19.3ポイント増加している。一方、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」が前回(平成25年)より13.1ポイント減少している。

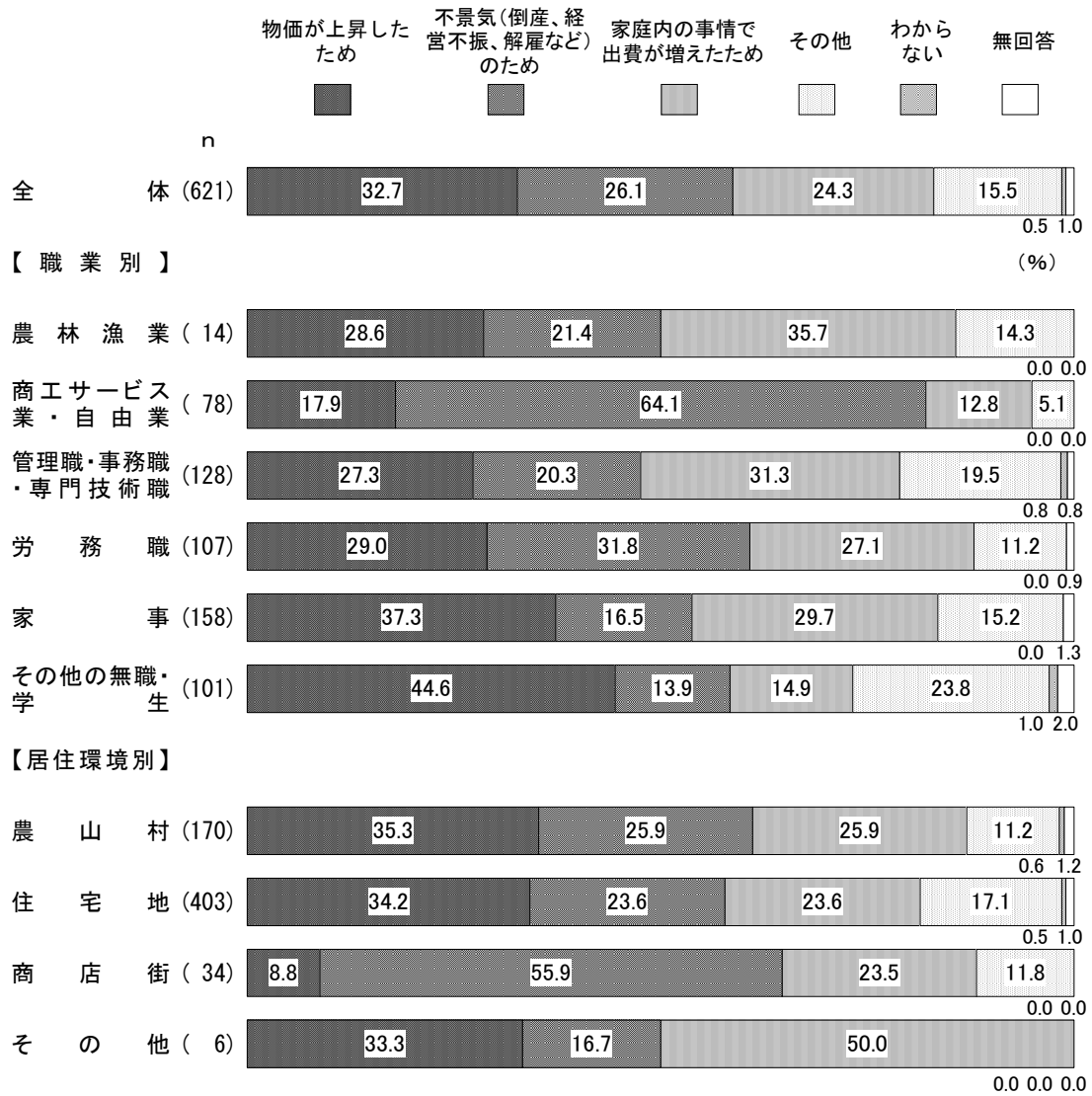
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」では〈男性〉（29.3%）が〈女性〉（22.8%）より6.5ポイント高く、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性〉（29.5%）が〈男性〉（19.3%）より10.2ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「物価が上昇したため」では〈女性20歳代〉が55.6%、〈男性70歳以上〉が50.9%、〈女性70歳以上〉が49.2%と高くなっている。「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」では〈男性60～64歳〉が42.9%、〈男性30歳代〉が37.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別]



職業別でみると、「物価が上昇したため」では〈その他の無職・学生〉が44.6%、〈家事〉が37.3%と高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈商工サービス業・自由業〉が64.1%と高くなっている。

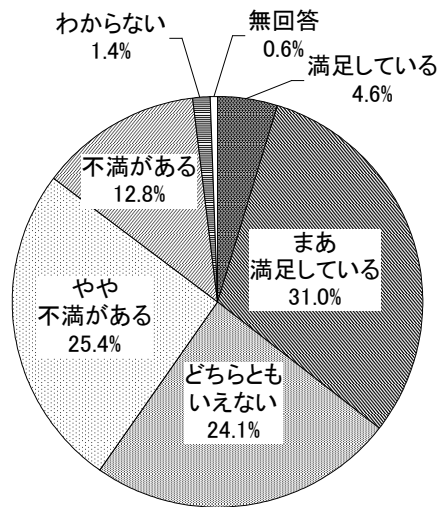
居住環境別でみると、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈商店街〉が55.9%と高くなっている。

(2) 暮らしの満足度

問2 あなたは、今の暮らしについてのどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。

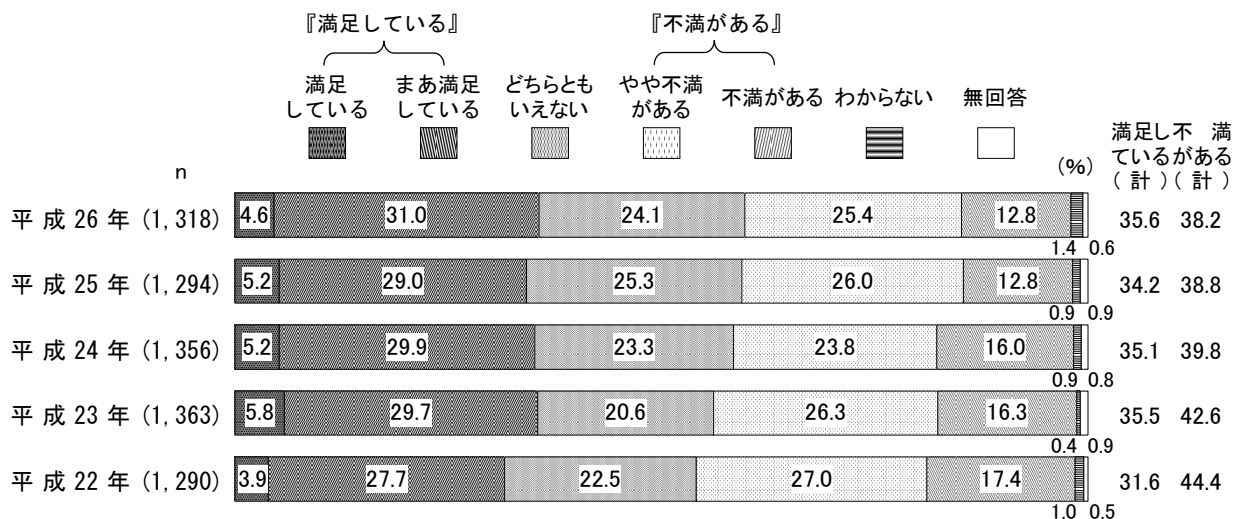
[n=1,318]

1	満足している	4.6%	4	やや不満がある	25.4%
2	まあ満足している	31.0	5	不満がある	12.8
3	どちらともいえない	24.1	6	わからない	1.4
				(無回答)	0.6



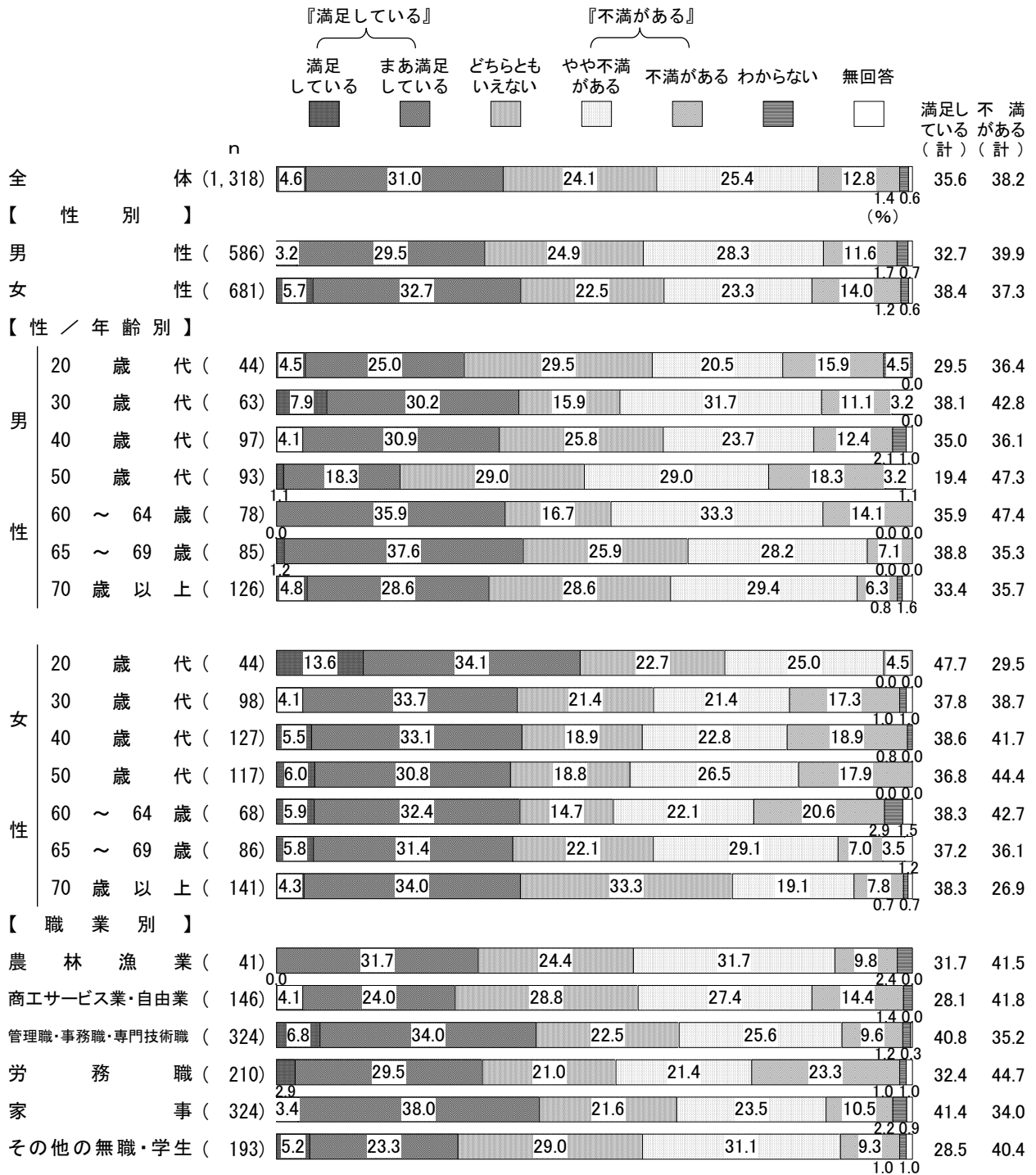
(n=1,318)

全体でみると、「満足している」(4.6%)と「まあ満足している」(31.0%)の2つを合わせた『満足している』(35.6%)は3割半ばとなっている。一方、「やや不満がある」(25.4%)と「不満がある」(12.8%)の2つを合わせた『不満がある』(38.2%)は4割近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、『不満がある』がやや減少傾向となっている。『満足している』は平成23年以降3割半ばで推移しており、大きな変化はみられない。

[性別・性／年齢別・職業別]

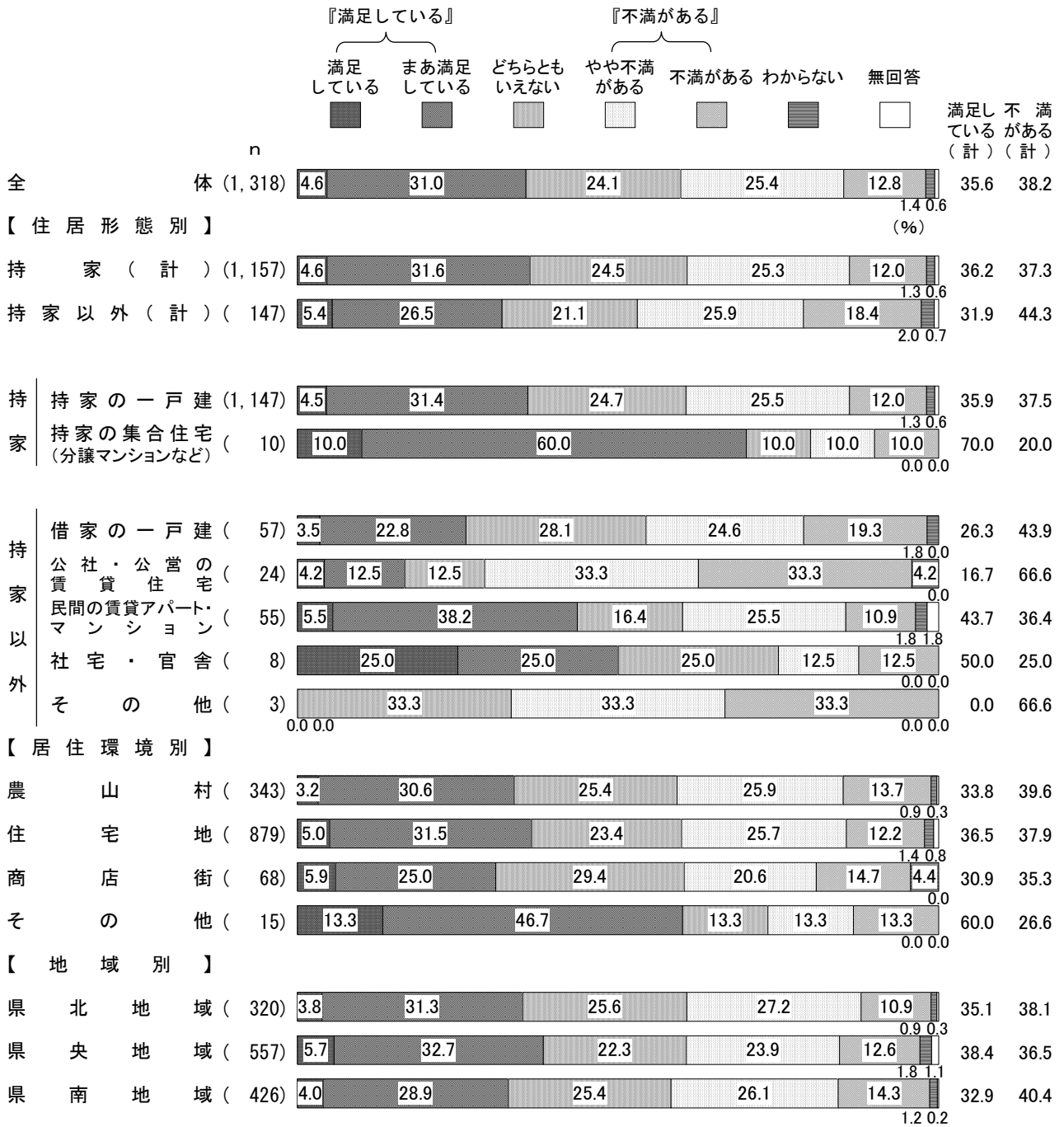


性別で見ると、『満足している』では〈女性〉(38.4%)が〈男性〉(32.7%)より5.7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『満足している』では〈女性20歳代〉が47.7%と高くなっている。『不満がある』では〈男性60～64歳〉が47.4%、〈男性50歳代〉が47.3%と高くなっている。

職業別で見ると、『満足している』では〈家事〉が41.4%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が40.8%と高くなっている。『不満がある』では〈労務職〉が44.7%と高くなっている。

[住居形態別・居住環境別・地域別]



住居形態別でみると、『満足している』では〈持家（計）〉（36.2%）が〈持家以外（計）〉（31.9%）より4.3ポイント高くなっている。

居住環境別でみると、『満足している』では〈住宅地〉が36.5%と高くなっている。『不満がある』では〈農山村〉が39.6%と高くなっている。

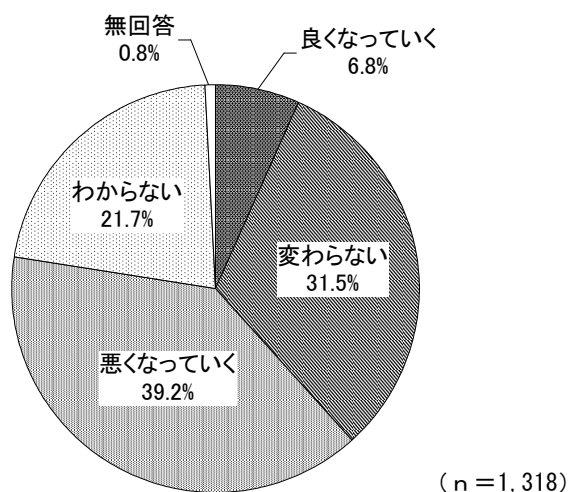
地域別でみると、『満足している』では〈県央地域〉が38.4%と高くなっている。『不満がある』では〈県南地域〉が40.4%と高くなっている。

(3) 今後の暮らしの状況

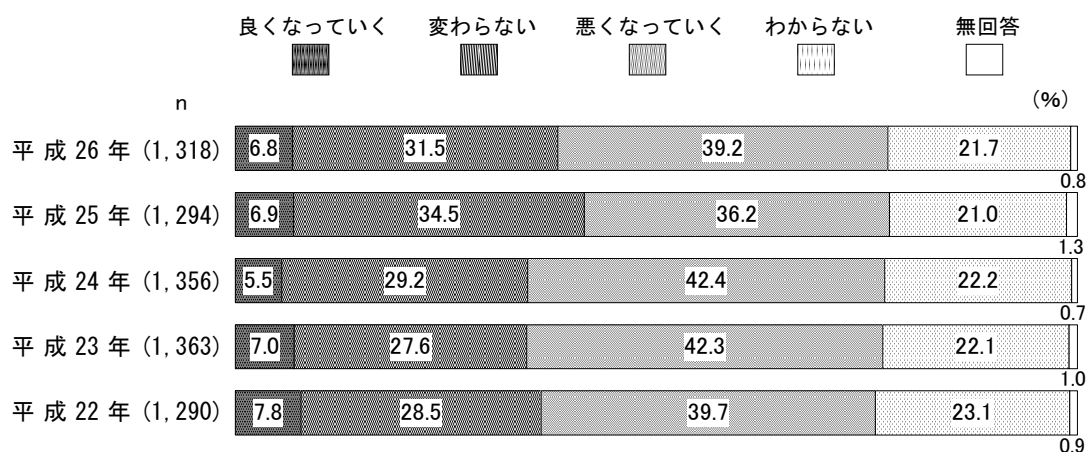
問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,318]

1 良くなっていく	6.8%	3 悪くなっていく	39.2%
2 変わらない	31.5	4 わからない	21.7
		(無回答)	0.8

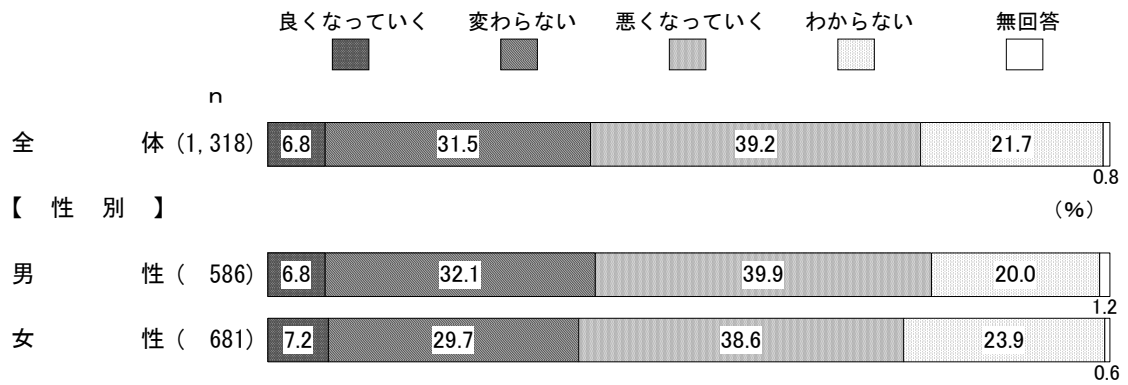


全体で見ると、「良くなっていく」(6.8%)は1割に満たない。「変わらない」(31.5%)は3割を超えており、「悪くなっていく」(39.2%)はほぼ4割となっている。

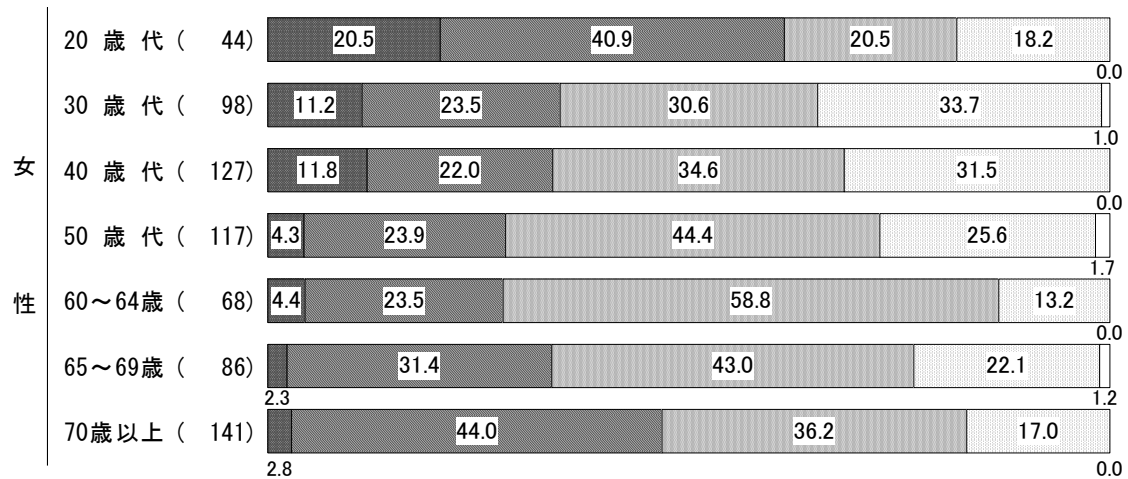
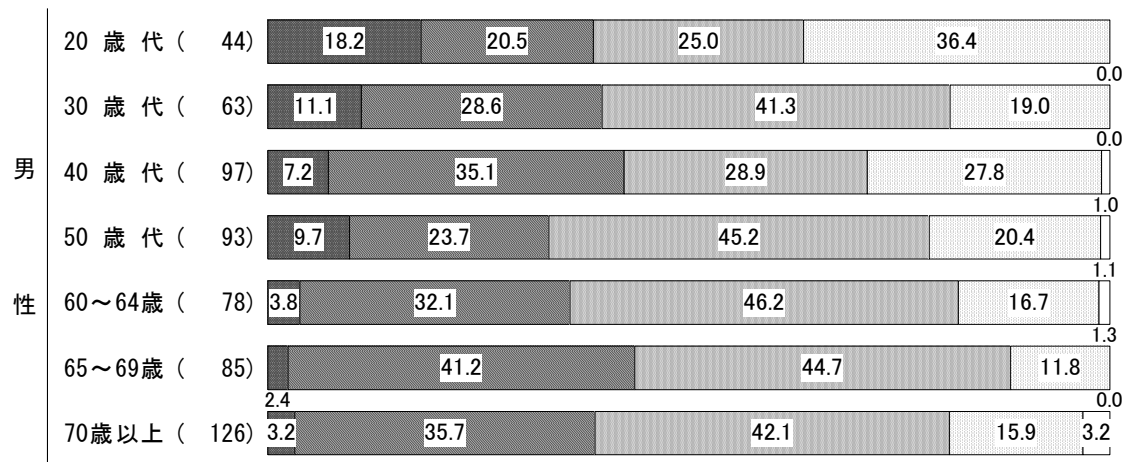


過去の調査結果と比較すると、「変わらない」が前回(平成25年)より3.0ポイント減少している。一方、「悪くなっていく」は前回(平成25年)より3.0ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]



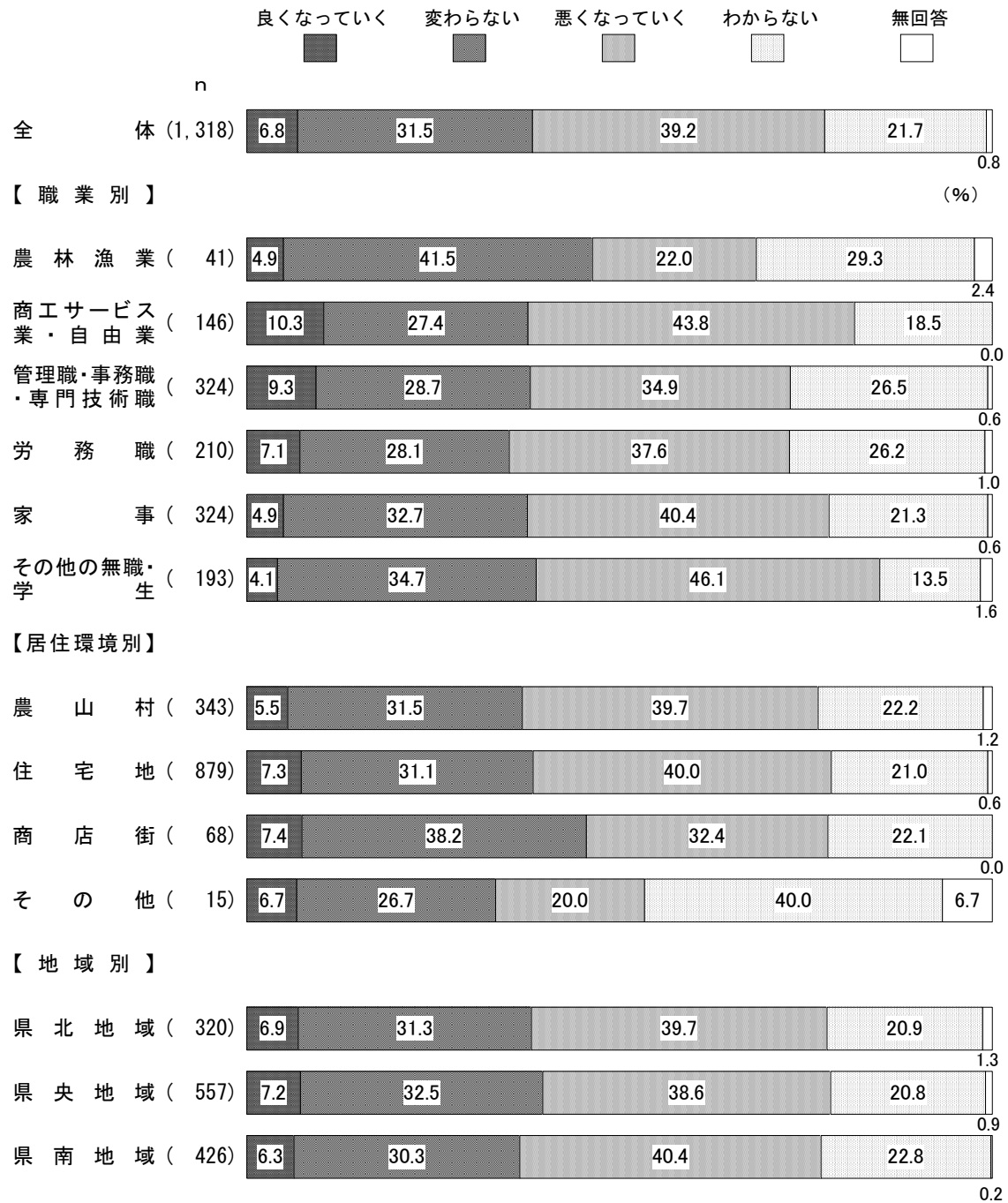
【性／年齢別】



性別で見ると、「変わらない」では〈男性〉(32.1%)が〈女性〉(29.7%)より2.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈女性20歳代〉が20.5%、〈男性20歳代〉が18.2%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈女性60～64歳〉が58.8%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、「良くなっていく」では〈商工サービス業・自由業〉が10.3%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈その他の無職・学生〉が46.1%、〈商工サービス業・自由業〉が43.8%と高くなっている。

居住環境別でみると、「悪くなっていく」では〈住宅地〉が40.0%、〈農山村〉が39.7%となっており、〈商店街〉(32.4%)に比べて高くなっている。

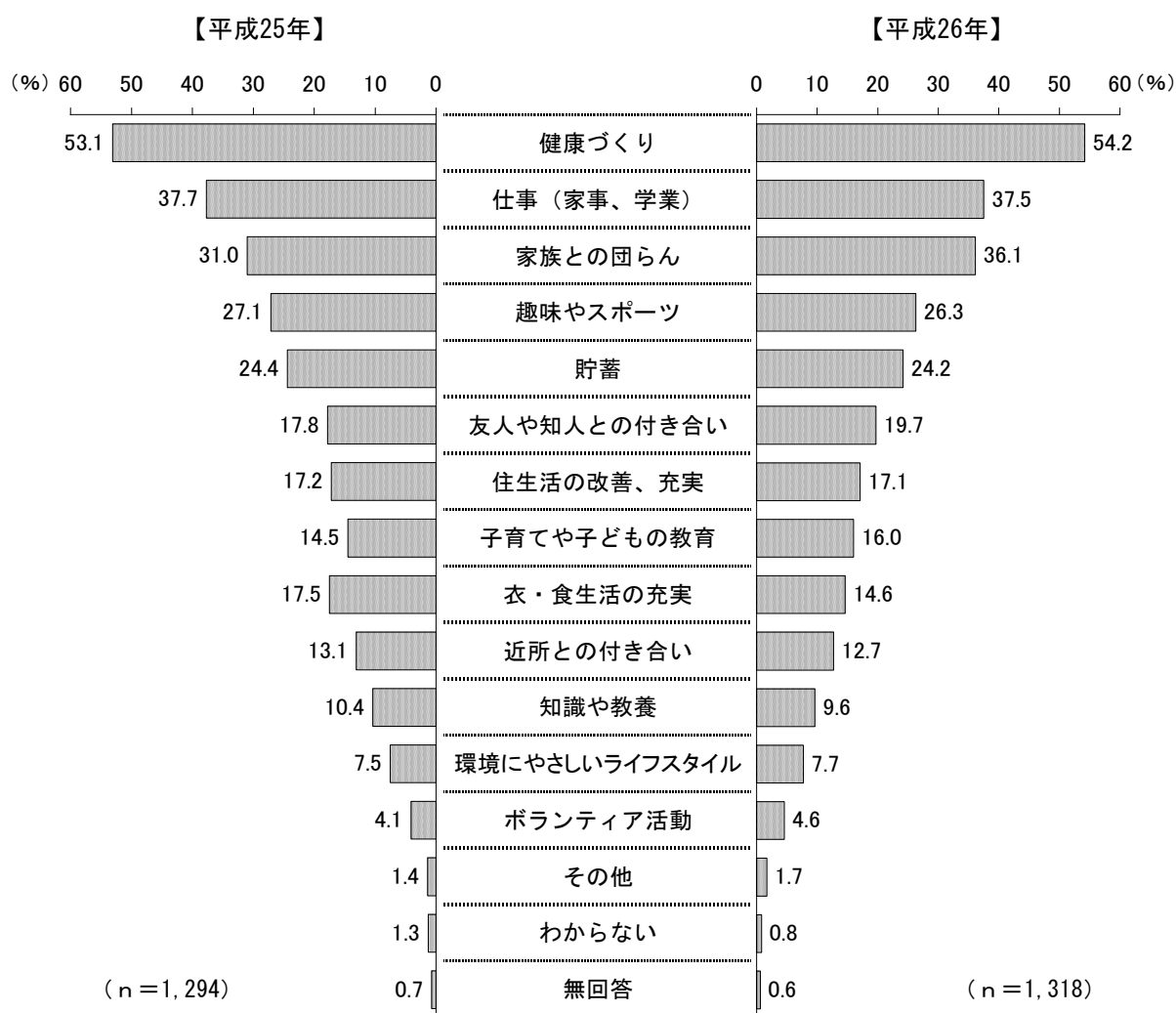
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。

[n=1,318]

1	仕事（家事、学業）	37.5%	9	家族との団らん	36.1%
2	知識や教養	9.6	10	近所との付き合い	12.7
3	貯蓄	24.2	11	友人や知人との付き合い	19.7
4	趣味やスポーツ	26.3	12	子育てや子どもの教育	16.0
5	ボランティア活動	4.6	13	健康づくり	54.2
6	衣・食生活の充実	14.6	14	その他	1.7
7	住生活の改善、充実	17.1	15	わからない	0.8
8	環境にやさしいライフスタイル	7.7		（無回答）	0.6

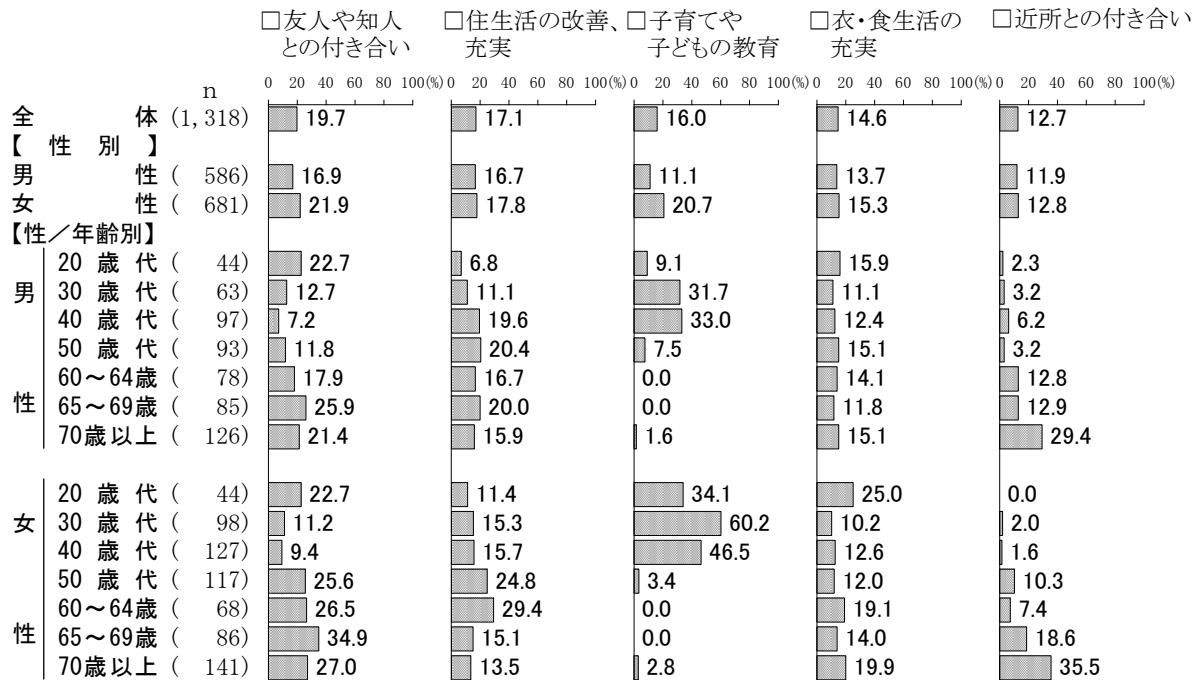
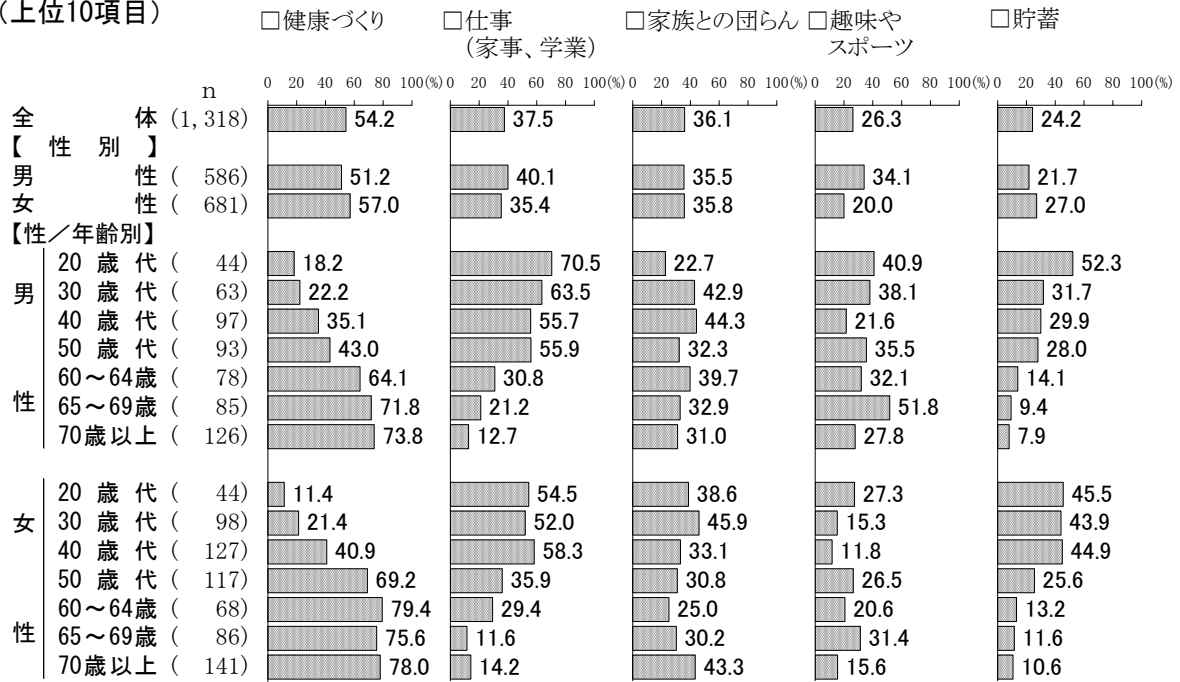


全体で見ると、「健康づくり」(54.2%)が5割半ばで最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(37.5%)、「家族との団らん」(36.1%)、「趣味やスポーツ」(26.3%)、「貯蓄」(24.2%)の順となっている。

前回（平成25年）の調査結果と比較すると、「家族との団らん」が5.1ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]

(上位10項目)

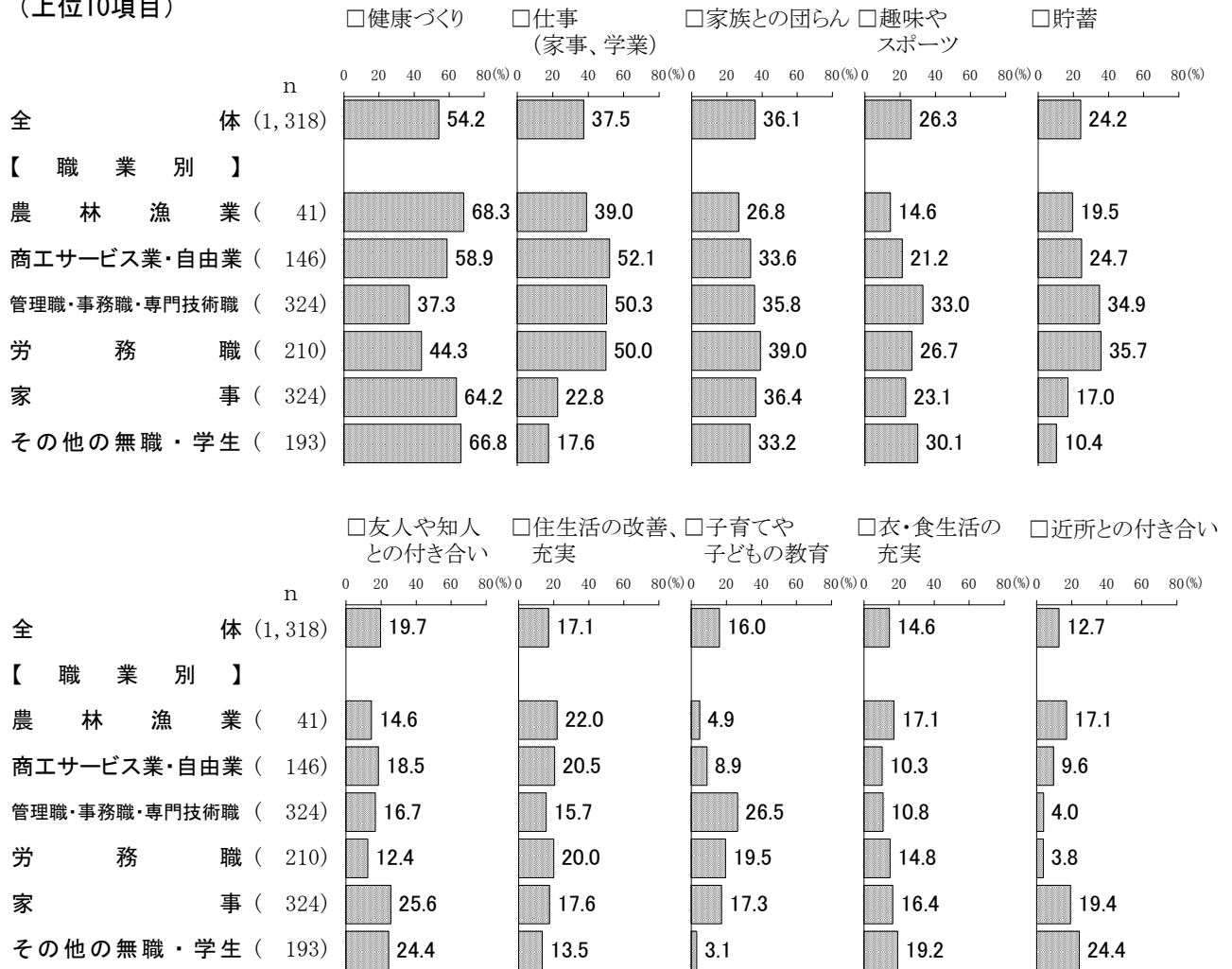


性別でみると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(34.1%)が〈女性〉(20.0%)より14.1ポイント高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性〉(20.7%)が〈男性〉(11.1%)より9.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「健康づくり」では〈女性60~64歳〉が79.4%、〈女性70歳以上〉が78.0%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉が70.5%、〈男性30歳代〉が63.5%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性65~69歳〉が51.8%と高くなっている。「貯蓄」では〈男性20歳代〉が52.3%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が60.2%と高くなっている。「近所との付き合い」では〈女性70歳以上〉が35.5%と高くなっている。

[職業別]

(上位10項目)



職業別でみると、「健康づくり」では〈農林漁業〉が68.3%、〈その他の無職・学生〉が66.8%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈商工サービス業・自由業〉、〈管理職・事務職・専門技術職〉、〈労務職〉が5割台と高くなっている。「貯蓄」では〈労務職〉が35.7%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が34.9%と高くなっている。